

「幸福度指標」に見る人口減少社会の未来の扉

～小国町「住民アンケート」から～ 第3回（3回シリーズ）

<趣旨>

当研究所は、人口減少社会の持続的発展のカギを探り出そうと挑戦している。

経済・社会・環境問題を一体とし、‘誰一人取り残さない’という包摂的理念を掲げ、2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals）と、2011年からOECD（経済協力開発機構）が提唱している「幸福の枠組み」から、「幸福度指標」作成を試みている。

最初の挑戦である、本年1月に実施した小国町との共同調査・研究「住民アンケート」において、その手がかりをつかむことができた。

4月号より、3回シリーズでお届けしている。

第1回（4月）：1970年に、総務省から‘過疎地域’の指定を受けた人口約7,000人の小国町。

人口減少に歯止めがかからない寂しさを感じながらも、そこに生活する方々の幸福度の高さと、その内容を紹介した。

第2回（5月）：町内6つの集落の幸福度を、比較した。

最も幸福度の高い「西里」は、2009年に小学校が廃校になった人口400人の、第三者から見れば、‘限界集落’。

第3回（本号）：その背景を、住民アンケートから整理し、潜在する新しい世界を開示する。

経済合理性の追求では、この事実は見えてこない。‘過疎地域’‘限界集落’が、人口減少社会の未来の扉を開く世界である。

そこに、新たなビジネスの可能性（コロブスの卵）を、見出した。

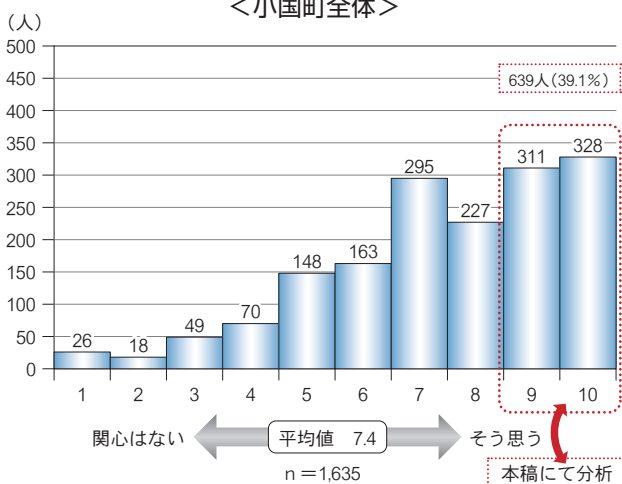
<監修>九州大学 馬奈木教授 ・熊本県独自の指標である「県民総幸福量」を参考に、質問票設計。

※ 4月号より、3回シリーズで掲載している本レポートは、2020年3月にOECD東京センターに提出した報告書の要約版です。報告書本文にご関心のある方は、当研究所にご連絡ください。贈呈いたします。

図表1 「住まい」の省エネやCO₂削減に配慮した作り

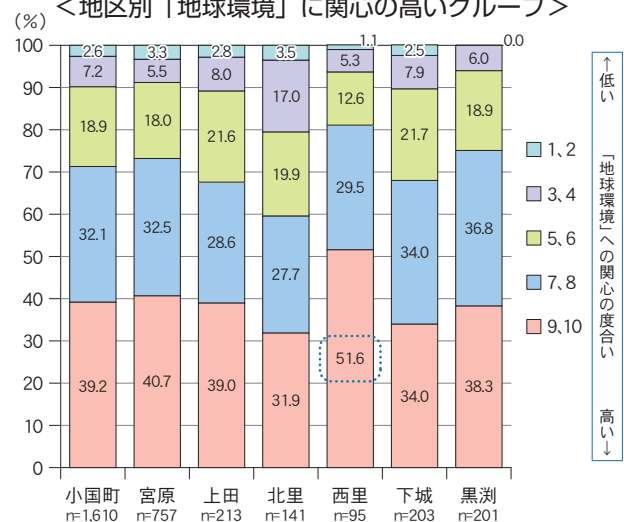
Q：あなたは、住まいについて、省エネやCO₂削減など、環境にやさしい作りの方がいいと思いますか？

<小国町全体>



「関心はない：1点」～「そう思う：10点」の、10段階評価。

<地区別「地球環境」に関心の高いグループ>



1 「地球環境」に関心の高いグループの幸福度

- 小国町には、環境配慮型の「住まい」に、極めて高い関心を示すグループが、4割弱存在し、特に「西里」は5割を超えている（前頁図表1）。
- この、「地球環境」に関心の高い人々は、幸福度が際立って高い（図表2）。
- このグループの性別や年代別といった属性は、小国町全体の構成とほぼ同じであり、これといった特徴は見られない。

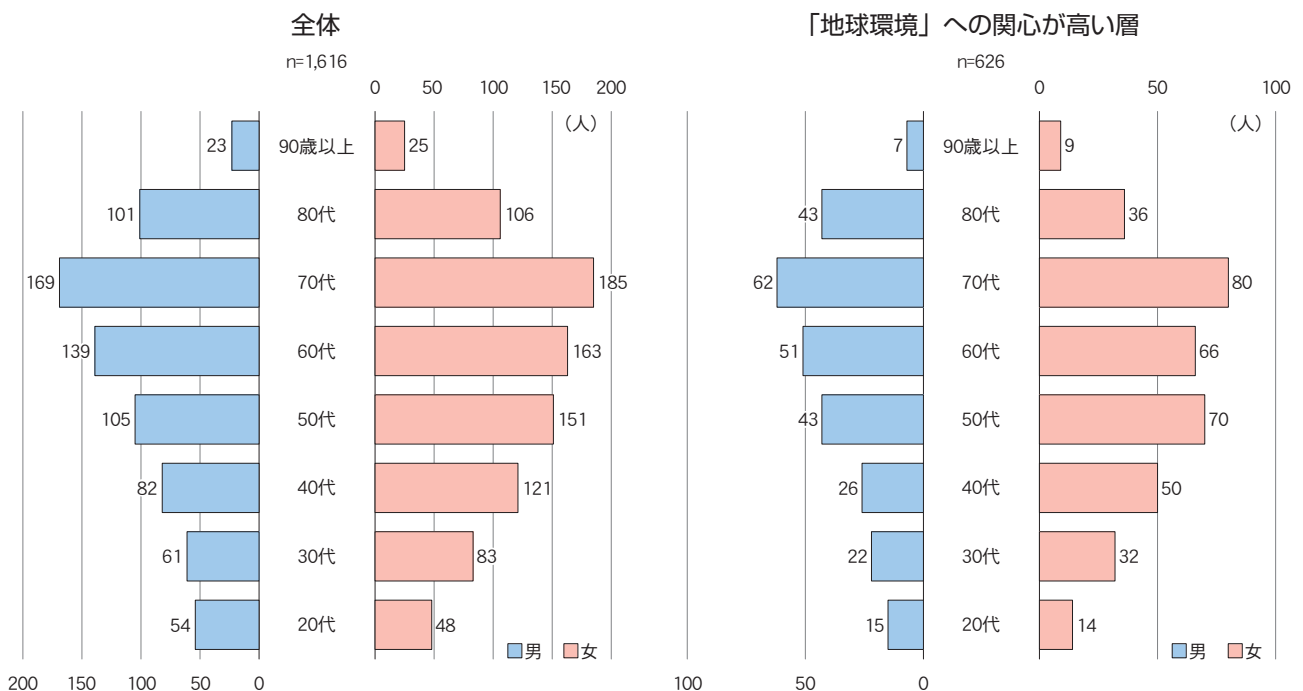
図表2 「主観的幸福度」と「OECD幸福の枠組み」



※「OECD幸福の枠組み」とは

- OECD（経済協力開発機構）が、2011年から提唱している10項目。
 1. 所得と資産 2. 仕事と報酬 3. 住居 4. 教育 5. 健康 6. ワークライフバランス 7. 社会とのつながり
 8. ガバナンス 9. 生活の安全 10. 環境・歴史・文化

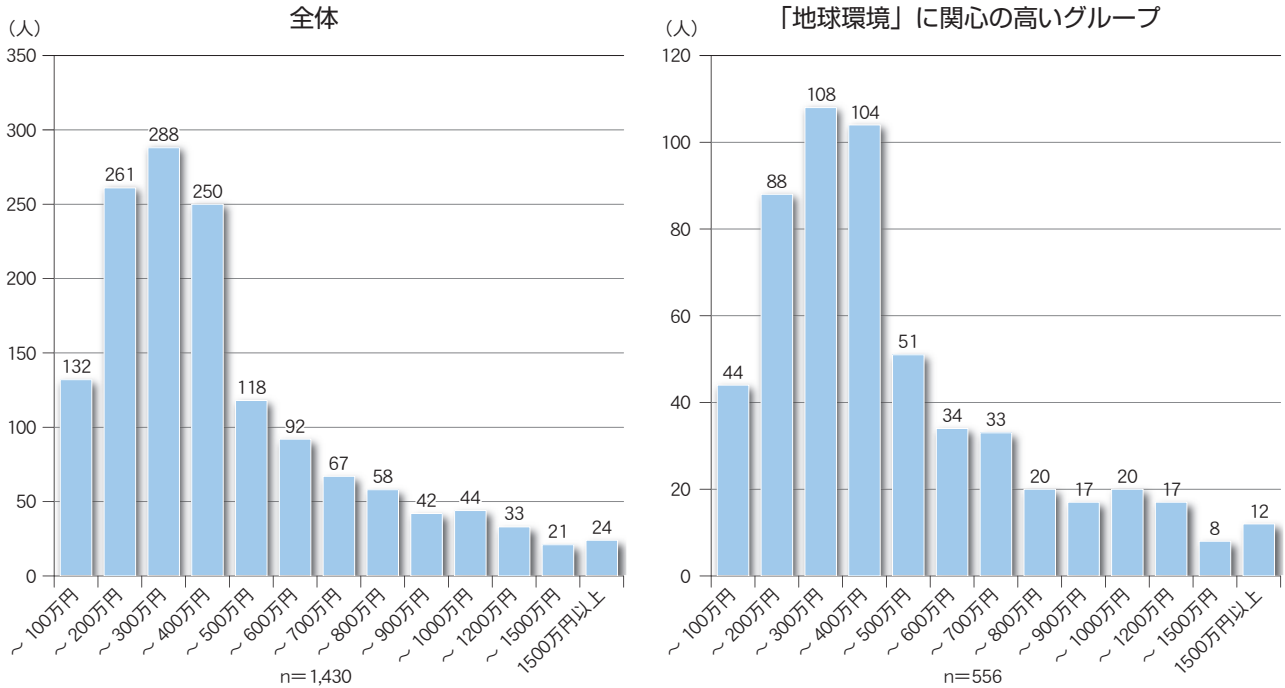
図表3 性別・年代別回答者内訳



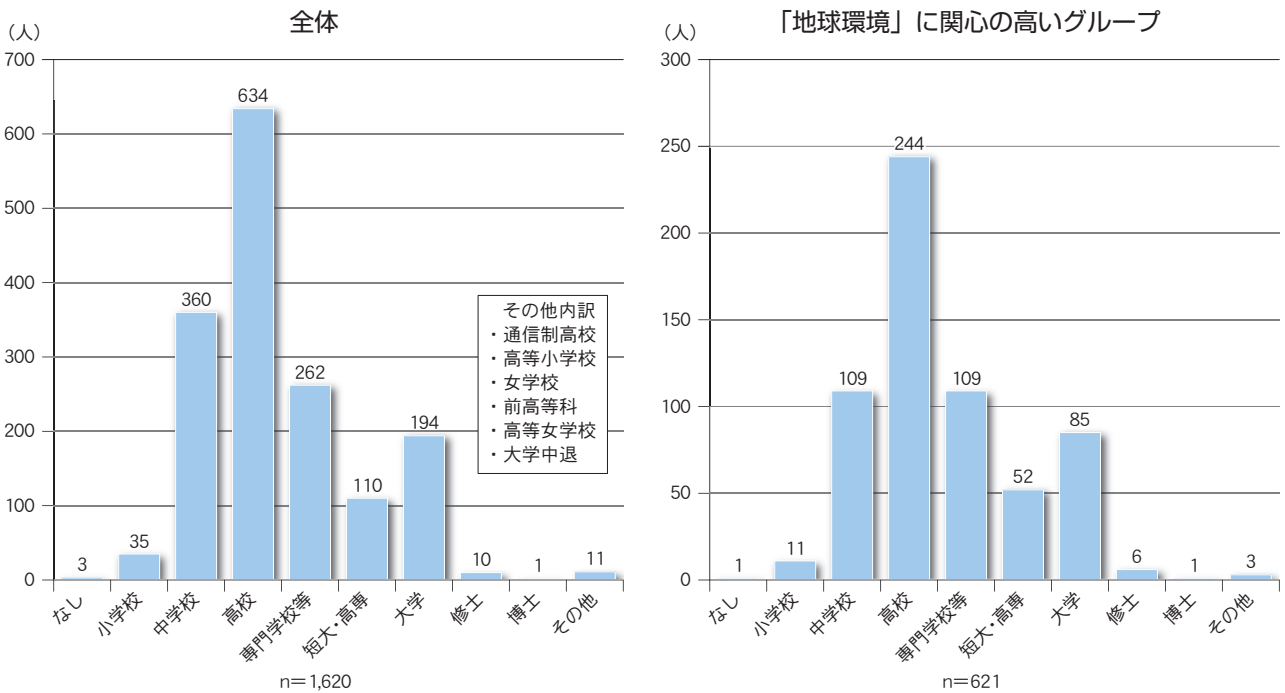
2 「地球環境」に関心の高いグループの特徴は・・・？

➤ 年収や学歴面を比較しても、「地球環境」に関心の高いグループには、これといった特徴は見い出せない。

図表4 世帯年収



図表5 最終学歴

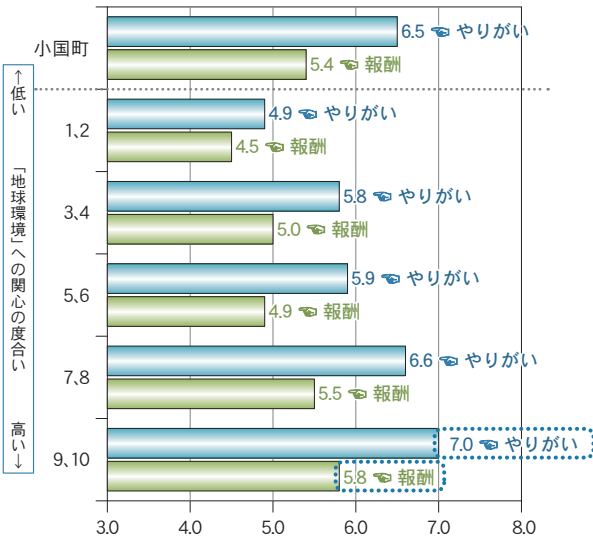


3 「OECD幸福の枠組み」の特徴的な評価

➤「地球環境」に関心の高いグループの属性には大きな特徴は見い出せないが、「OECD幸福の枠組み」に対する評価は、際立って高い。

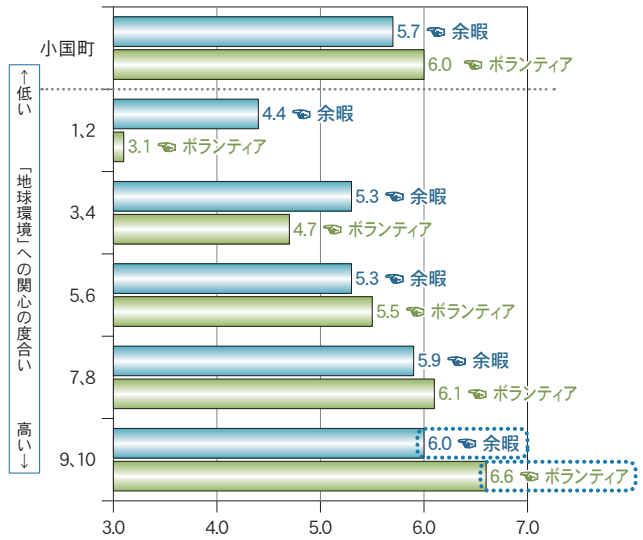
図表6 仕事と報酬

Q：あなたは、現在のお仕事に「やりがい」を感じていますか？
 Q：あなたの現在の報酬は、あなたの「がんばり」に見合うものだと感じていますか？



図表7 仕事と余暇

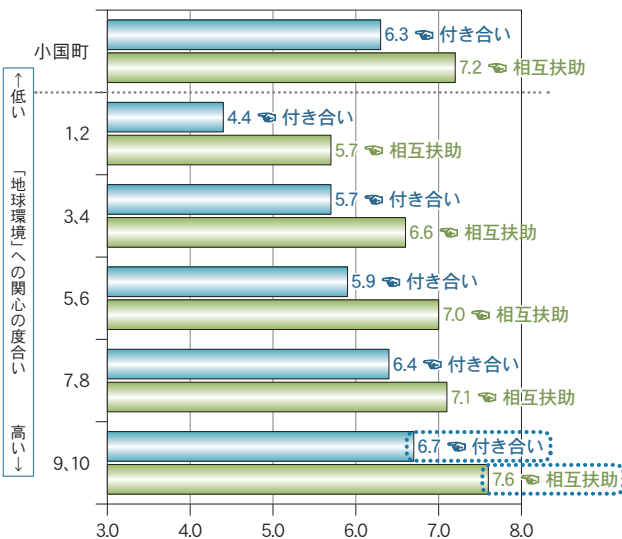
Q：あなたは、ご自身やご家族、あるいは地域のために過ごす時間を、十分に持つことができていると感じていますか？
 Q：あなたはボランティア活動に関心がありますか？



図表6～9は「1～10」の10段階評価。点数が高いほど満足度が高い。

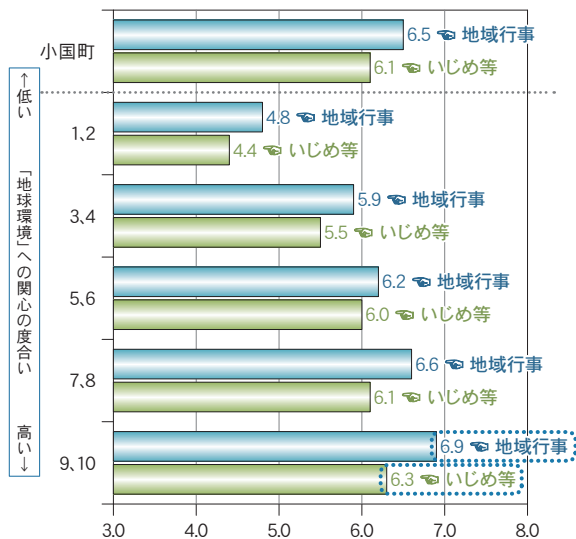
図表8 社会とのつながり

Q：あなたは、ご近所づきあいや、自宅以外でくつろげる所は、ありますか？
 Q：あなたのご近所、あるいは地域では、何かあった時にお互いに声を掛け合ったり、お手伝いをしたりする習慣はありますか？



図表9 自治

Q：あなたは、選挙や集落などの行事への参加について、積極的ですか？
 Q：あなたの地域では、学校での子どものいじめや、家庭内暴力、汚職の問題などに対して、多くの人が強い関心を持っていると感じますか？



満足度の数値は、低いより高い方が良いが、〇〇点以上が良いと、それ未満は悪い、というものではない。今回の小国町の初めての調査を基盤に、他地域との比較が進むことで各地の特徴が明らかになることが期待される。

5 総括

- 国内はもとより世界の経済社会が、感染症終息後には大きな変化に向かう可能性が出てきている。
過密都市より地方社会の安定・安全性等の見直しの気運であり、経済合理性を追求するゼロサム社会からの脱却である。
- そのネクストソサエティの先導者となるのが、今回、存在が明らかになった「地球環境」に関心の高いグループではないかと考えている。

(1) 新たな市場の開発

「地球環境」に関心の高い人々は、消費生活にも明確な意思を持っている（前頁図表10）。

彼らの問題意識は、解決すべき社会課題であり、それを顕在化させると、ビジネスの対象となる‘ニーズ’になる。

この社会課題を起点に、SDGs（持続可能な開発目標）と自社の事業領域との関係を検証していくと、新たな市場が見えてくる。

☞ご関心のある方は、当研究所にご連絡ください。「SDGs経営支援メニュー」を準備しています。

(2) 共生社会の形成

彼らは、再生可能エネルギーに強い関心を持ち、地域資源の価値を知り、相互扶助と互惠、そして自治を大事にしている。

本格化する人口減少社会において、彼らをステークホルダーにすることで、地域循環型の持続可能な共生社会を形成する扉が開くと考える。

(3) 証拠に基づく政策立案（EBPM：Evidence-based policy making）

経済合理性の追求だけでは社会課題を解決できない様な、大きな変動期を迎えていることに、多くの人が気づき始めている。これまでの経験や勘が通用しない、パラダイム・シフトの問題だ。

3回シリーズでご紹介

して来た「幸福度指標」

は、17個のSDGsとの関係をマトリックス表（右図）に整理することで、自治体が策定している地方版総合戦略のKPIと紐付けることができる。

行政のKPIを、住民が評価するツールとなる。

図表11 「EBPM」マトリックス表イメージ

